

2026年度大学院博士前期課程学内選考試験問題

研 究 科 名	科 目 名
文学研究科 社会学専攻	選択問題

以下の設問から、1つを選んで解答しなさい。

1. 小学生あるいは中学生の子どものいる夫婦の離婚について、親（夫婦）の側からと子どもの側から、それぞれの立場からみた離婚の影響について述べなさい。
2. 人間関係の希薄化が進む社会的背景と要因について説明しなさい。

解答または解答例：

Answer Keys or Examples：

1.

家族という社会集団において、構成するメンバーにより、それぞれの位置づけから差異があることを理解している点に注目する。

離婚という出来事が、親たちにとっては問題の解決に向かうことであるが、子どもたちにとっては新たな問題の発生になることを、社会学的想像力をもって説明できる。詳細な字練について論及することまでは求めていないが、ある程度具体的な事例が紹介できれば、より望ましい。

社会的な経験の理解について、ナラティブな視点を重視して理解しようという点にも注目したい。

2.

人間関係の希薄化とは、家族・地域・職場などにおける持続的で密接な社会的つながりが弱まり、個人間の関係が流動的・選択的・断片的になる傾向を指す。

その社会的背景として、第一に、産業化・都市化の進展があげられる。都市生活は匿名性を高め、地縁・血縁を基盤とした共同体的関係を弱体化させた。

第二に、家族形態の変化である。核家族化や単身世帯の増加は、日常的相互扶助関係の縮小をもたらした。

第三に、労働環境の変化がある。非正規雇用の拡大や長時間労働は、安定した職場共同体の形成を困難にしている。

第四に、情報通信技術の発達が挙げられる。SNSなどは新たなつながりを生む一方で、関係の即時性・選択性を高め、対面的な関係の持続性を弱める側面も指摘されている。

さらに、個人化の進展（ベック、ギデンズなどが論じた現象）により、人生設計や価値選択が個人の責任へと委ねられる傾向が強まり、伝統的な帰属集団への依存が低下している。

以上のように、人間関係の希薄化は単一の要因によるものではなく、社会構造の変容、家族制度の変化、労働市場の流動化、情報環境の変化、価値観の個人化などが複合的に作用した結果として理解できる。

付記：

上記は到達水準を示す一例であり、他の理論的枠組みや事例に基づく論述も適切に評価対象となる。

出題意図：

Intent of Questions：

1. 一面的な理解になりがちな社会問題について、社会学的相対主義の視点から理解できているかを確認する。
2. 本問題は、現代社会における人間関係の変容を、社会構造の変化との関連において説明する能力を評価することを目的とする。